

東日本大震災・原発被害復興支援基金ニュース

No.2 企業組合とちぎ労働福祉事業団 2011年7月20日発行

引き続き、宇都宮まちづくり市民工房さんに基金を託して支援活動を行っています。

最近の様子は、以下の通りです。

1) 栃木県内避難者の方々への物資提供

夏服、夏用の下着のニーズが高く、避難所から出る方々の男物の夏用下着が急きょ一定数必要となり、事業団からの寄付金の一部を購入費用に当ててもらいました。

2) 家電家具提供

これから自立を目指して県内のアパートに引っ越す方が増えるにつれ、需要も高まると思われれます。事業団で入手したりサイクル家電も活用していただく予定です。

3) いわき市での災害支援活動

原発から 25km 圏内にある久ノ浜地区など、まだガレキが手付かずのまま放置されている地域もあり、現在でも、大人数を投入して継続的かつ体系的に行う必要があるとのこと。

「愛する飯舘村を還せプロジェクト 負けねど飯舘!!」に寄付をしました。

今回初めて、同プロジェクトに3万円の寄付を行いました。



尊い命を守り、美しかった頃の飯舘村を取り戻すために行動していきます。



<http://space.geocities.jp/iitate0311/>
愛する飯舘村を還せプロジェクト
負けねど飯舘!!

福島県飯舘村では、福島第一原発の事故に起因する放射能という「見えない津波」によって、今なお多くの命・生活・未来が脅かされています。

基金の収支状況 (7月20日現在)

<収入額>

個人寄付額	36,000円
法人上乘せ額	36,000円

合計 72,000円

<支出額>

外部への寄付	66,000円
諸経費	870円

収支残高 5,130円

このことに対して声をあげ、尊い命を守り、美しかった頃の飯舘村を取り戻すために行動することを目的とした団体です。活動の基本的な目的と内容は次のとおりです(ホームページより一部を抜粋)。

- 長期にわたり子どもの命と健康を守っていくこと
と／村民の健康管理
→健康手帳の発行にむけた活動など
- 補償・賠償のため、また飯舘村が忘れられないよう、声をあげ続けていくこと
→弁護士など専門家を招いての法律相談や勉強会の開催など
- 村民がもとの飯舘村に戻れるまでの心の拠り所としての存在となること
- 離散した村民どうしのコミュニティを維持していくための取組など
活動状況などを今後も継続してお知らせします。

その他

一般社団法人とちぎ青少年自立援助センターさんなど、全国各地の合宿型の若者支援団体が共同で「若年者復興サポートセンター宮古」(岩手県宮古市)を立ち上げ、東日本大震災の被災地支援を始めています。こちらも後日、改めて詳しい活動内容をお知らせします。